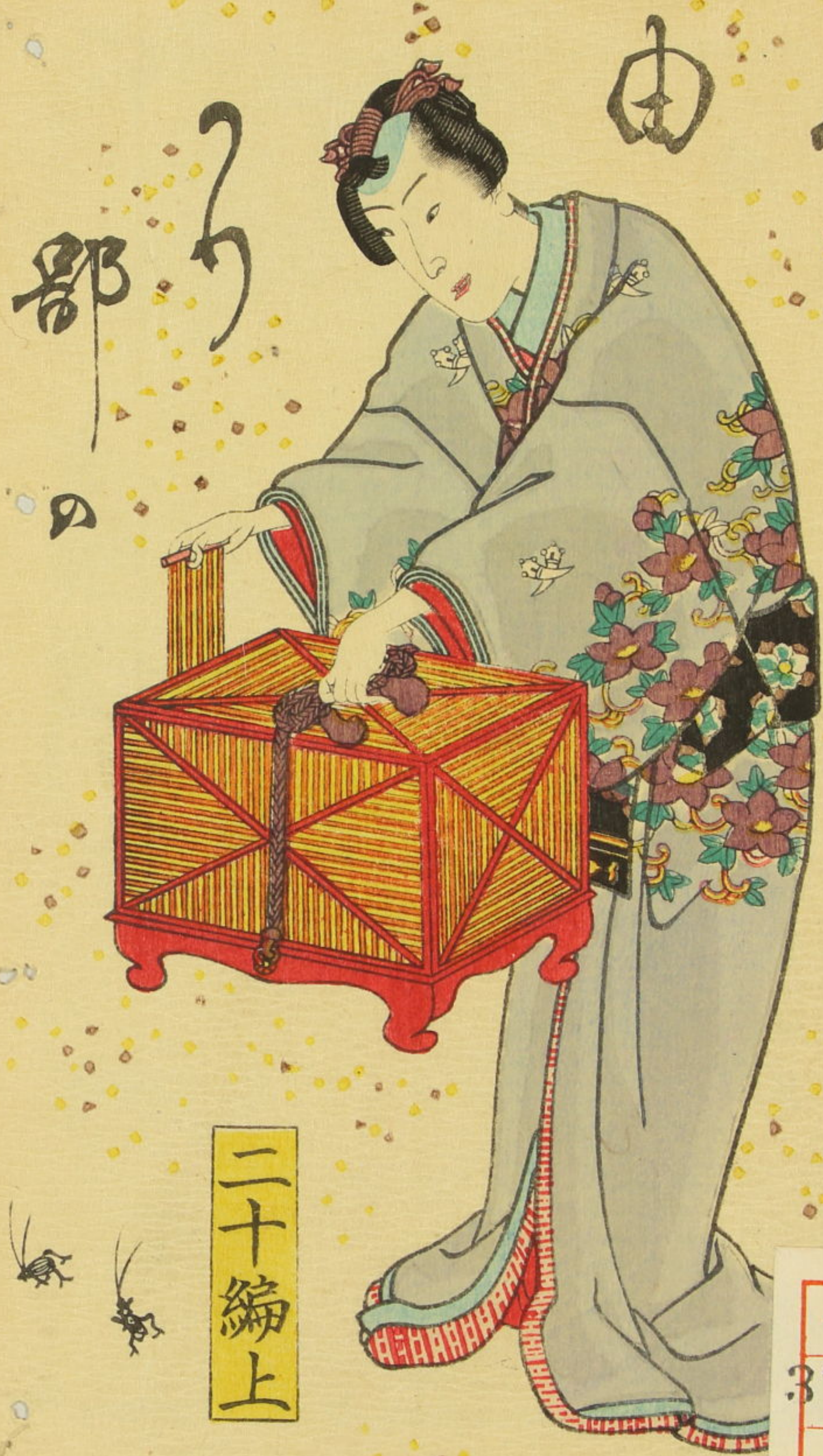


錦昇  
又庫  
種彦作  
由夏魚  
ゆき  
ゆき

二十編下

~ 13  
3730  
40



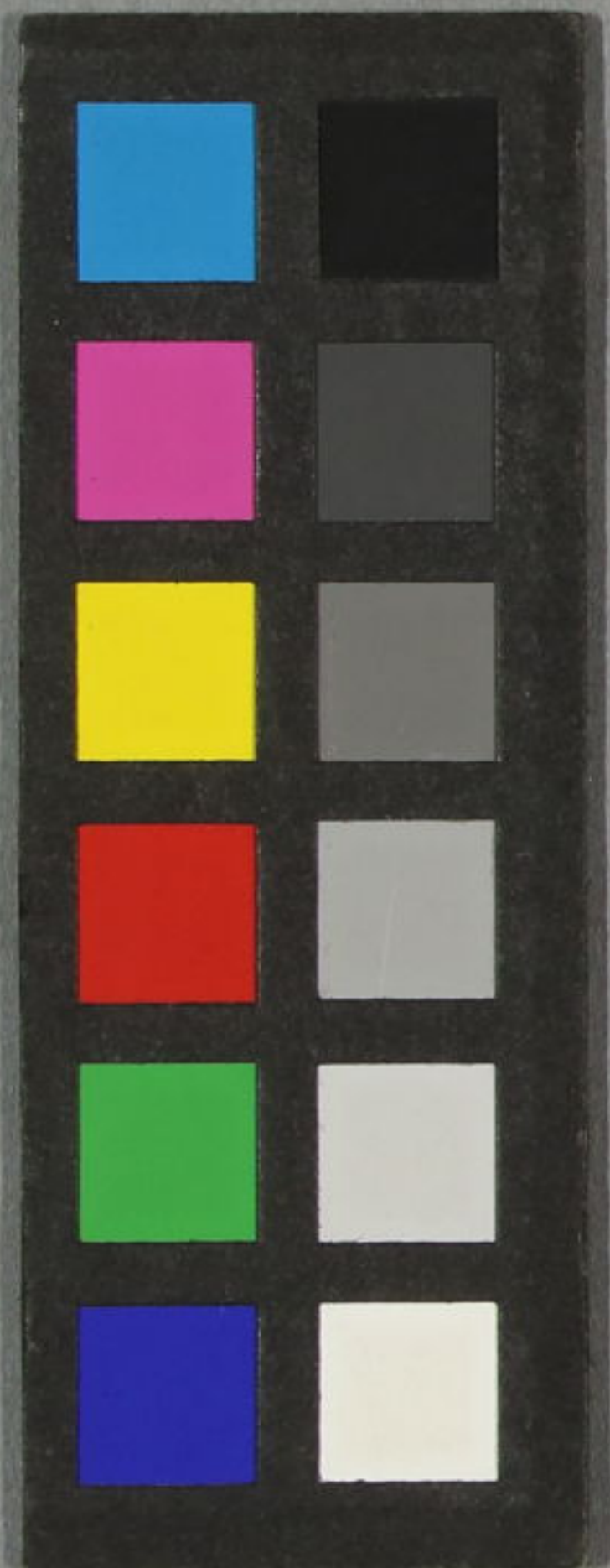
由  
生  
り  
郡  
の

升題曲豆因

二十編上

~ 13  
3730  
39





一生 由 郡

二十編上

升題曲豆國

~ 13  
3730  
39



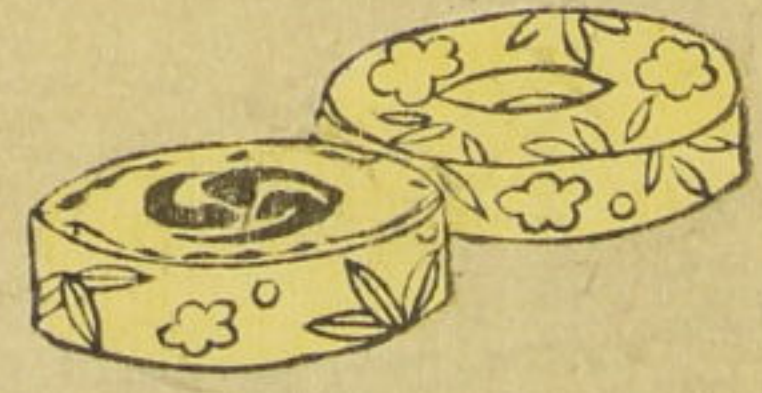
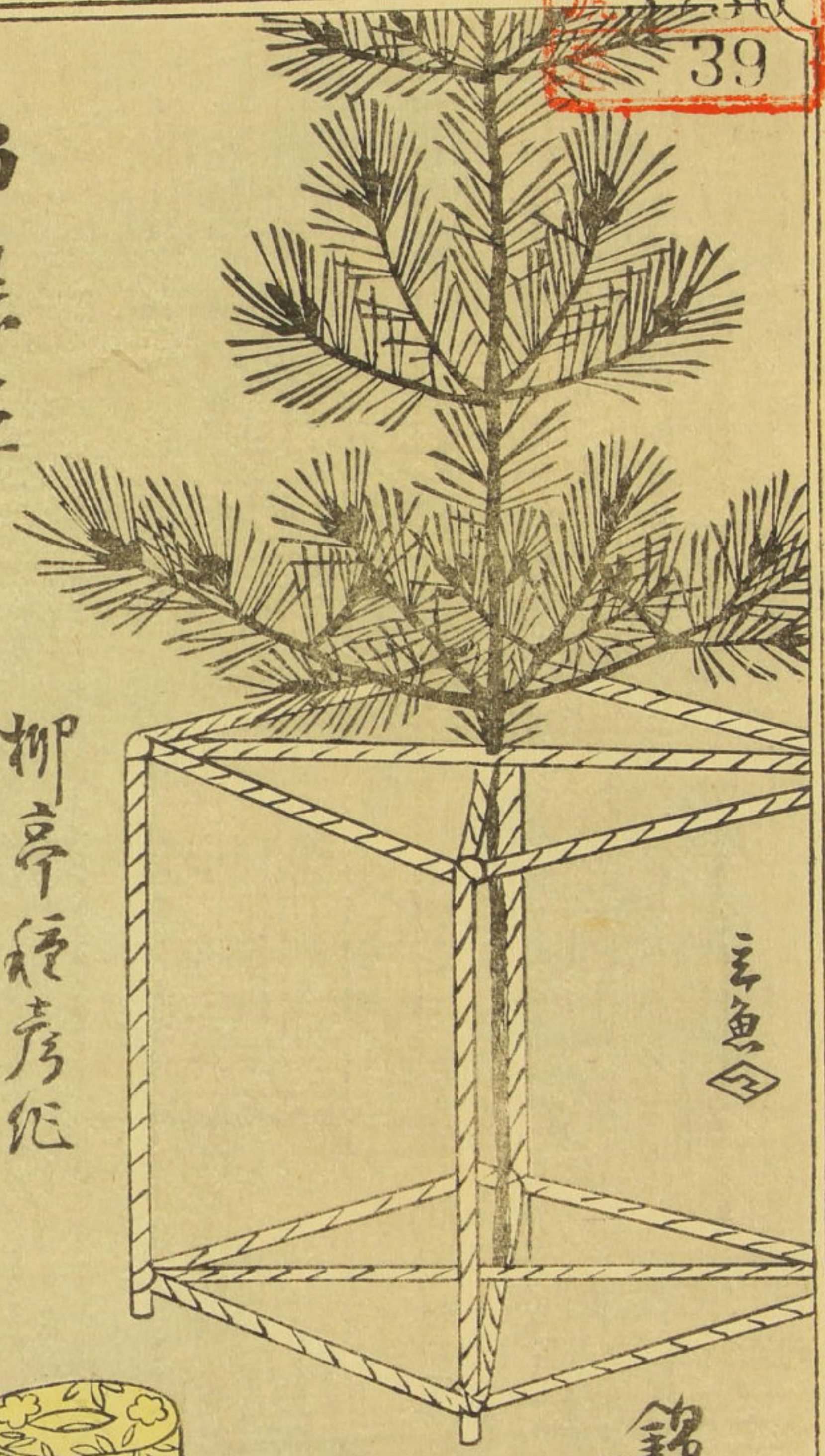
門へ13  
 2730  
 39

曾能遊

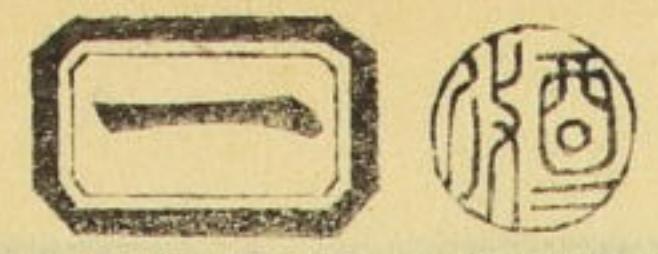
深理 寸編上快

柳亭種彦作

敦川國貞画



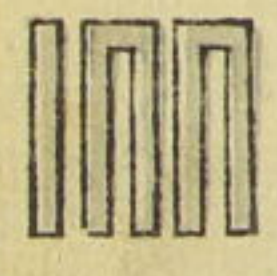
錦  
 昇  
 臺  
 藏  
 持



紅葉や落葉の話ふりて不図思出たる近頃京にて工夫せし雜伎有能狂言  
 かとる内小歌舞伎の踊所作事小変るを青葉の紅色小染るに比し  
 てりそと稱擬紫の趣向是とむるく本文小の因循と綽約ある姫君や  
 都雅ある郎君の濃体くして甜美所計ふての勇ましと諸所小修羅場しゆらばのや  
 韻を雜へて元氣を補ひの故翁の案ト妙といふと其の上小ふまは色とてし愚輩が  
 手際ふての猿樂さるがのやカガキなればこれ一段よりござらぬとちく不着の間語罷  
 出る度同一顔智計で滅多謀叛人のまゝなる毎編異ねば作我さふ厭しくい  
 是のふとてりて捨れ計ふがう花も何り實もある紫文の趣と萌さず蛇の足を  
 あるやの漆縁の透逸として長むのせは数十部重ねず五十四帖の全部小満尾ん  
 と本編めて横笛の巻も畢りぬれど少し即真あるもよは落葉小混る松の葉乃  
 緑の栄に小あふんのと陶の凶徒平治の時より放あつる松虫の身はをきありの鈴虫の  
 巻迄の乃草の花開出る七月の末盆挑燈のありを假りて序づけを夜延り

文久二年  
 壬戌春

種彦識



下等二



源氏

長賢鏡

北村季吟

女むのさね  
西の渡殿の  
あはれおのれ  
るは

さ  
たの



横あえふ

あふふ

鈴香の

取手友が

れと  
は  
野  
よ  
そ  
ま  
る  
に

あ  
ひ  
く  
ま  
ど  
い







そのころの... 木を... 神... 女...

とす... たい... け...

あつた... け...

あかん... け...

あつた... け...

巻...

五



あつた... け...

あつた... け...

あつた... け...

品...







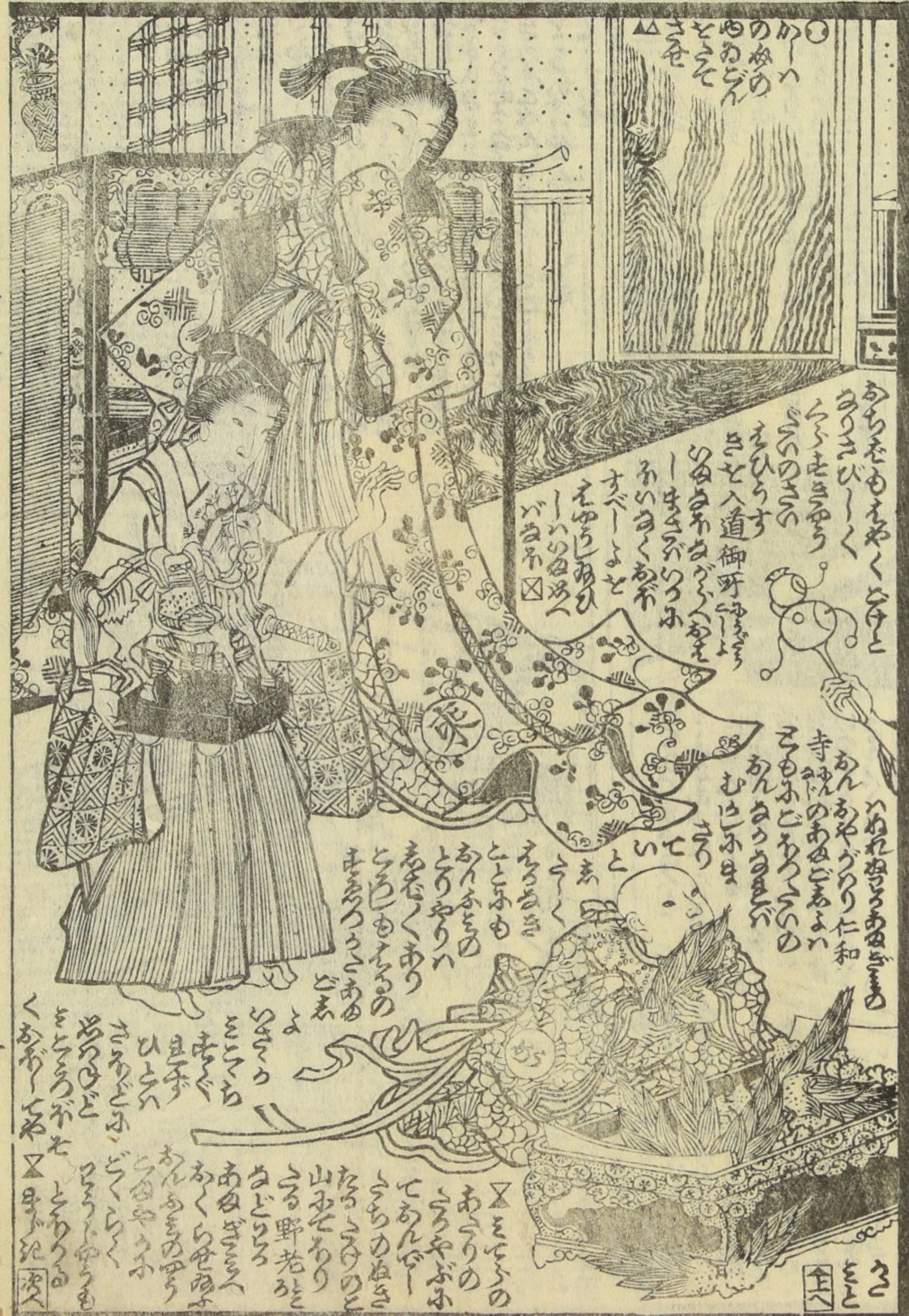


あつ  
きあん  
うしろ  
とふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ



あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ

あつしちやう  
りきるあんじ  
さああん  
うしろとふま  
のさよ  
いひ





○ののの  
△ののの  
×ののの

△のの  
×のの  
○のの

△のの  
×のの  
○のの

△のの  
×のの  
○のの

△のの  
×のの  
○のの

△のの  
×のの  
○のの



△のの  
×のの  
○のの

△のの  
×のの  
○のの



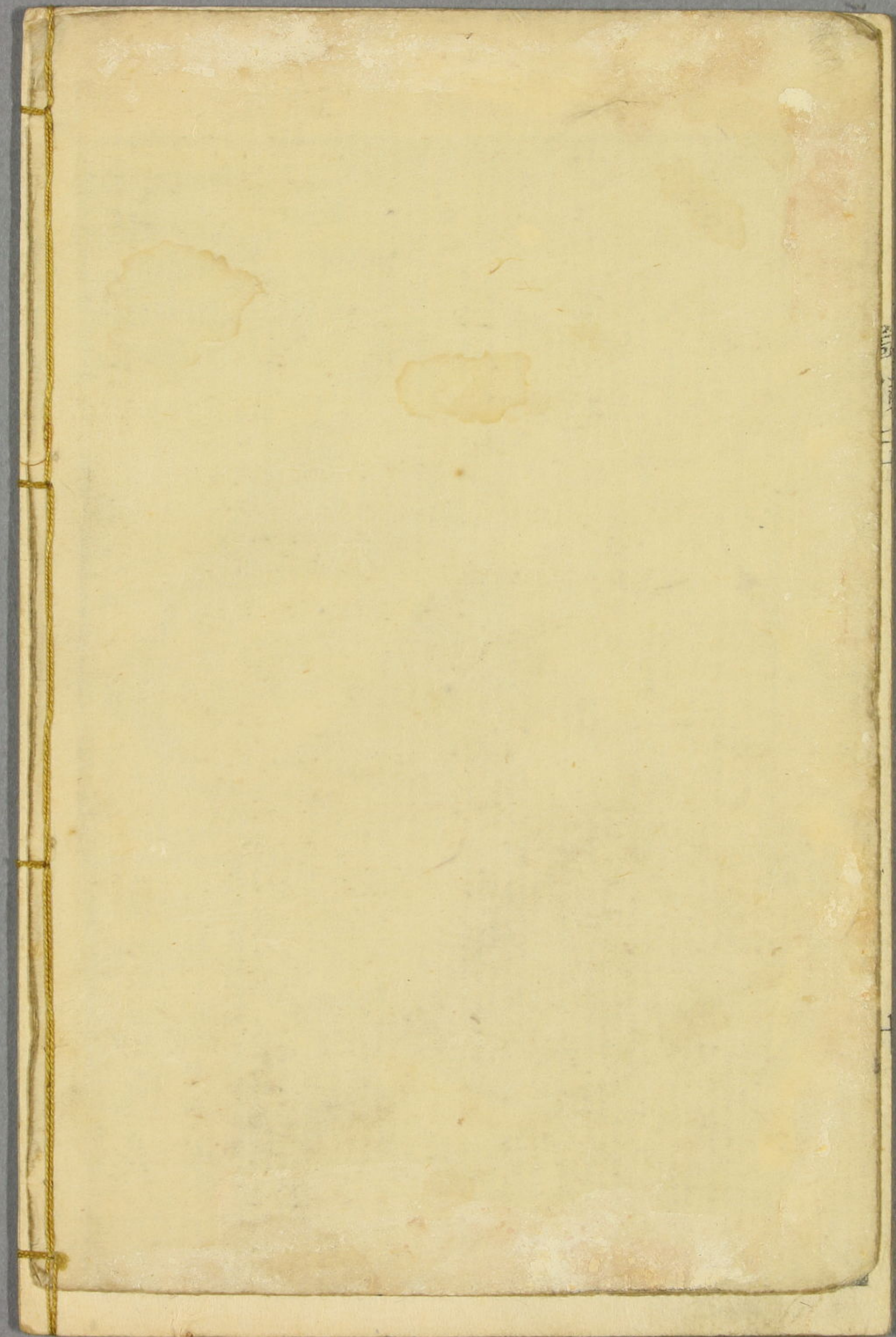
柳亭種彦著 編  
 梅蝶樓國貞畫

源氏  
 和琴  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが

源氏  
 和琴  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが

源氏  
 和琴  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが

源氏  
 和琴  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが  
 此の曲は  
 昔の歌に  
 似てゐる  
 といふが





袴色

二十編下

ハシ

種彦作

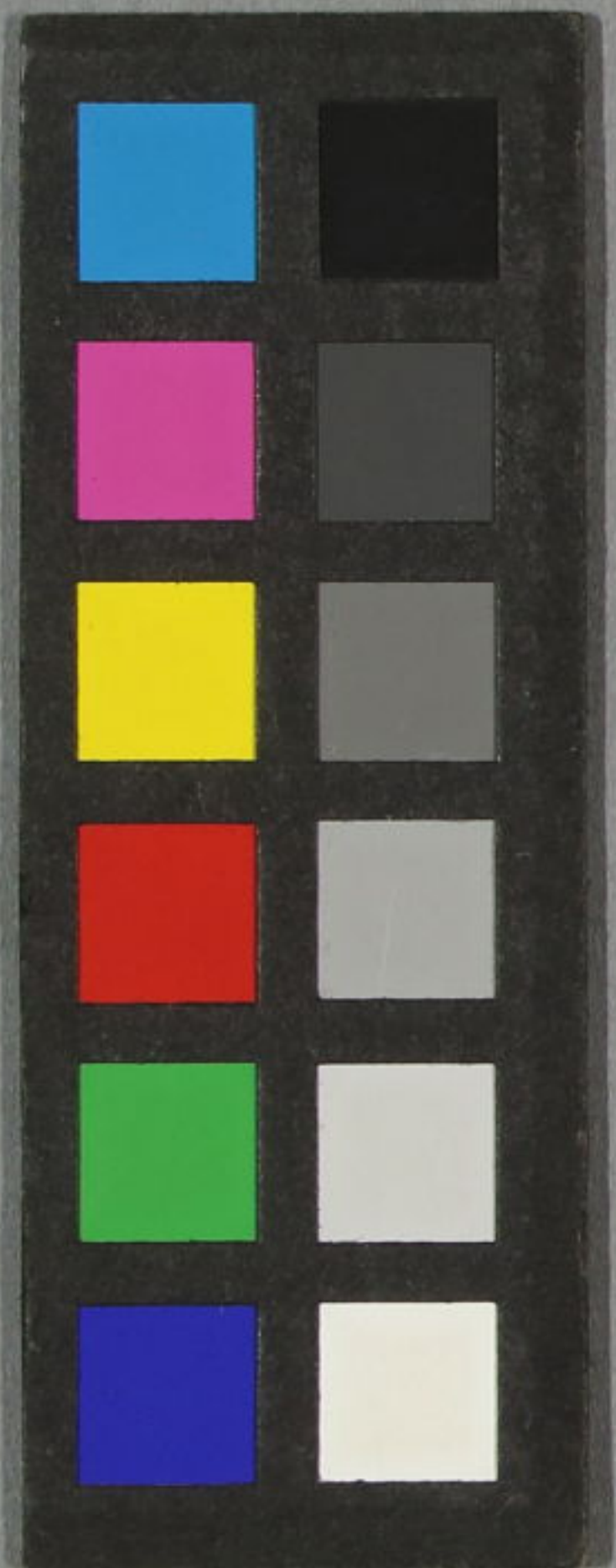
田真魚

錦昇

文庫

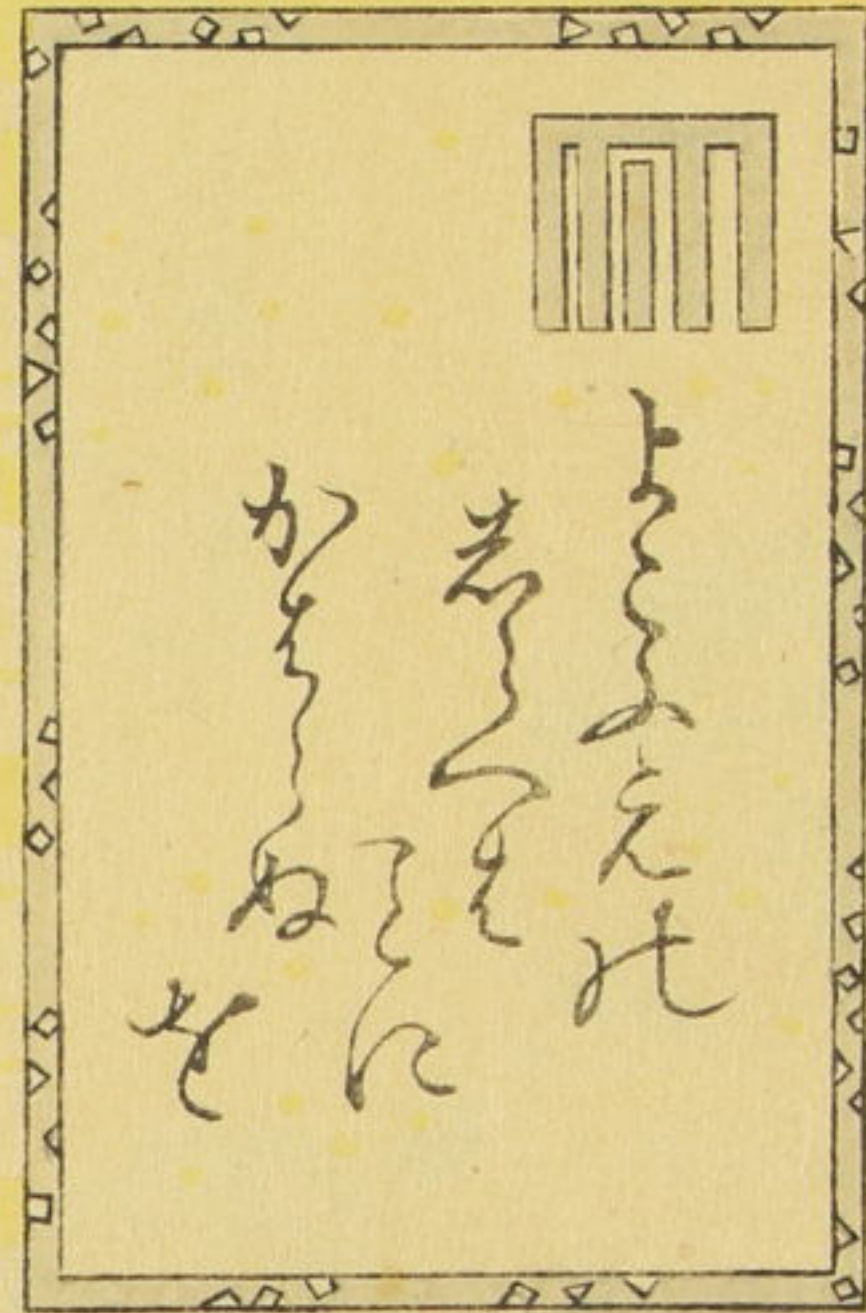


~ 13  
3730  
40



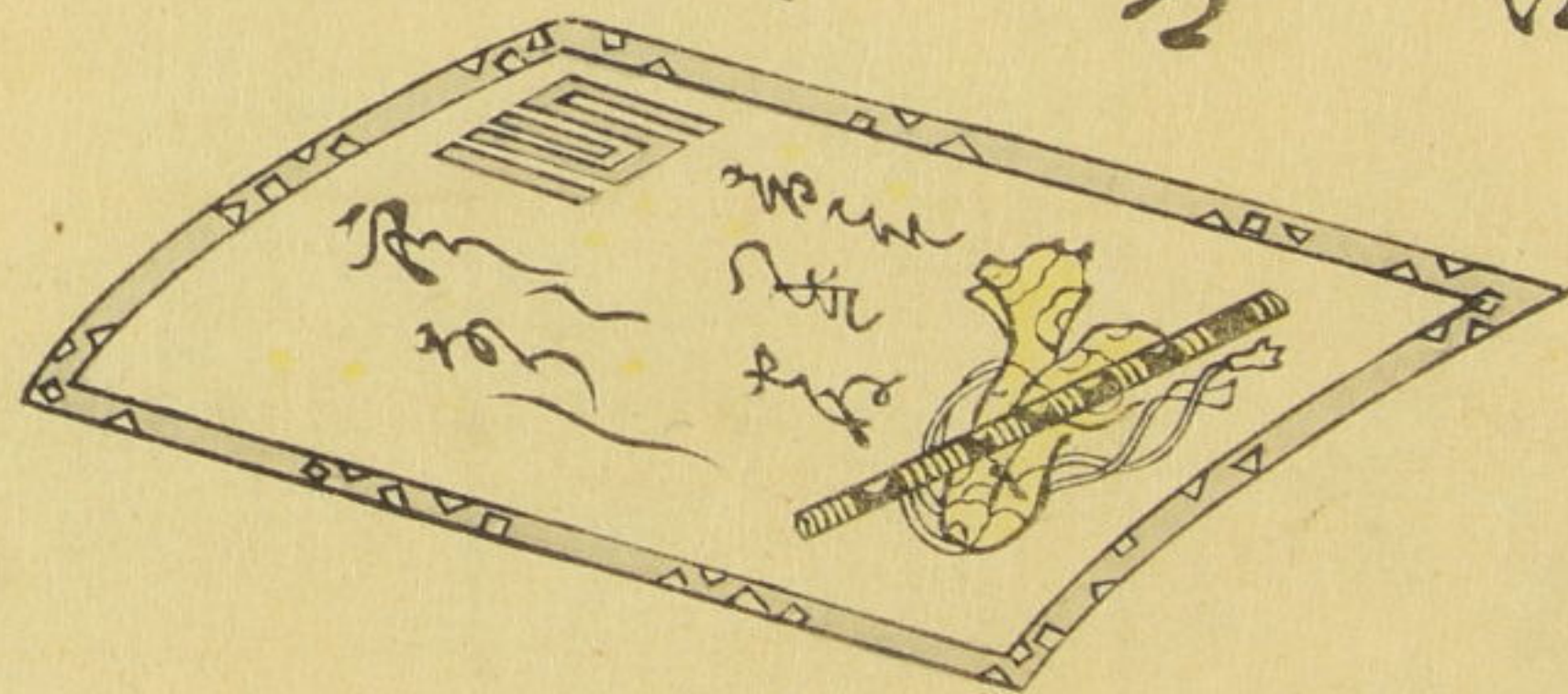
部の俤

貳拾編下帳

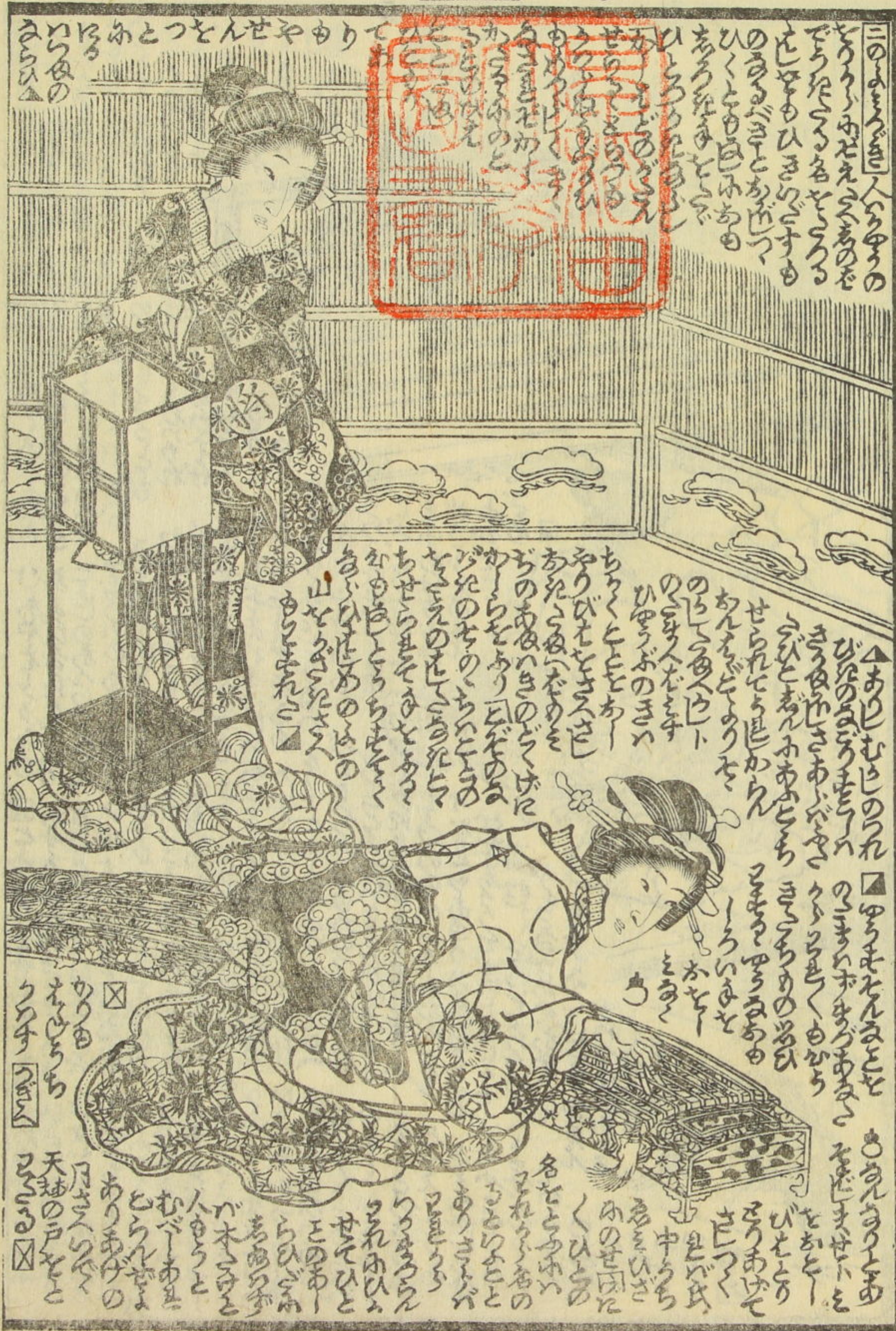


た年花古  
 作  
 久仁左方  
 繪  
 え以寸や  
 板

二魚



三



二











四



第廿二

音無門

十六

▲ておき  
四ツまは戸  
そきくろ  
てりつこ  
一ヶ月  
兄ハ

▲三の  
とておも  
あへず  
あを

▲まはりて  
おこりて  
あまぢりて  
ふとさる  
まうけ  
おまお  
ねむる人  
があらぬ  
ウト



第廿三

十五

▲まはり  
山谷の下  
小音せらぬ  
くさひく  
えれとあ  
さむの  
回の巻入









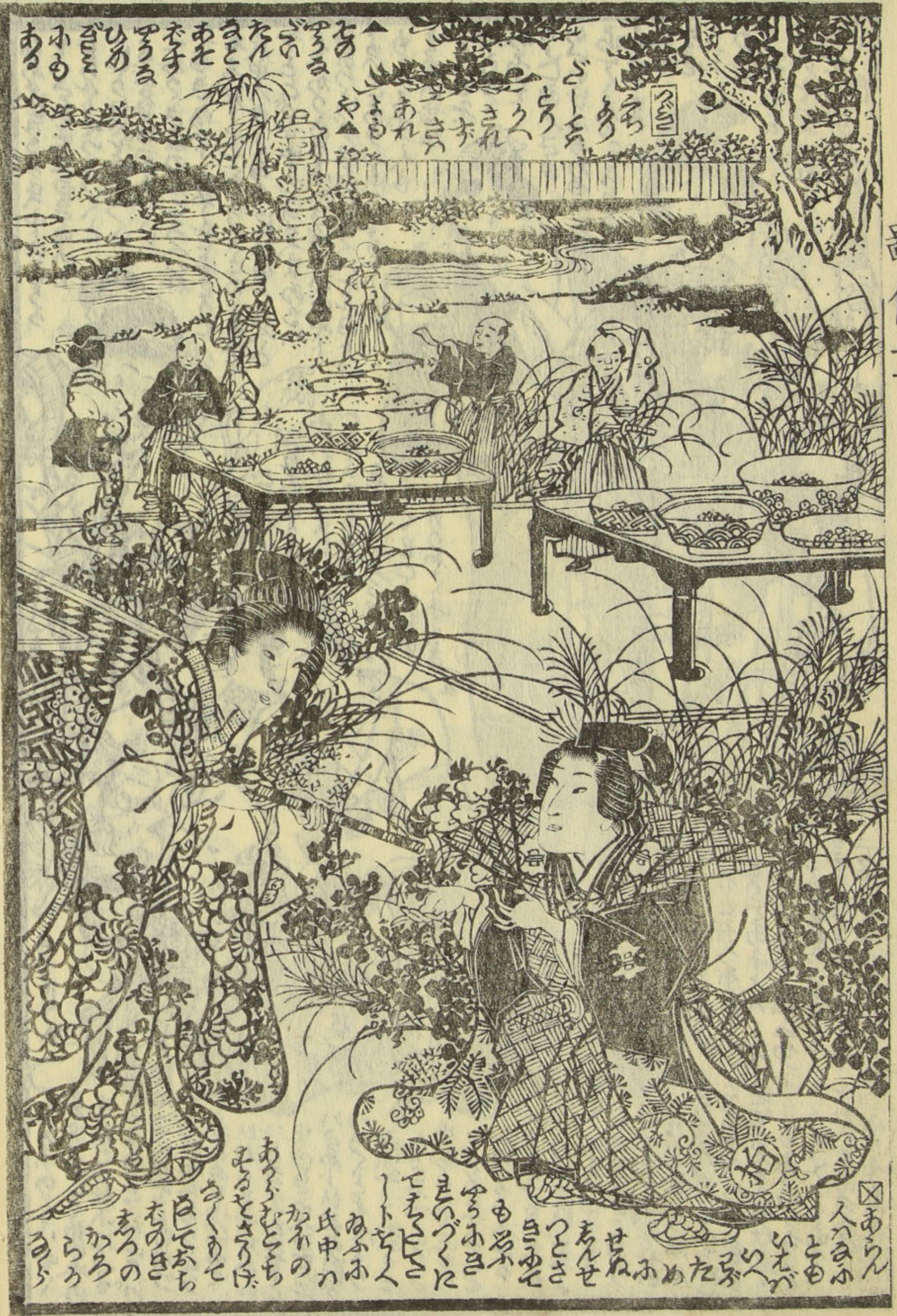


あまのつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと

足利義包卿

あまのつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと

あまのつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと



あまのつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと

畠山

あまのつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと  
 おとこあやつりさしりふくよおと



